



第九卷第二十號

【※】

明治四十二年を送る

鳥兔^{うと}匆々^{きうきう}、歲月^{げつごつ}は人を俟^{まち}たずして、茲^{こゝ}に、明治^{めいし}四十二年^{しにじゅうにねん}は暮^くれんとす。願^{ねが}みれば俗事^{ぞくじ}徒^{いたづら}に忙^{せわし}うして事^{こと}凡^{すべ}て志^{こころざし}に違^{たが}ひぬ。慚^{ざん}愧^き！

來^こん年^{ねん}こそはと勢^{いきほ}ひ込みし今年^{こゝねん}も早^{はや}二旬^{じゆん}の後^{のち}には後^{あと}もなく消^きえんとす。歳^{さい}晚^{ばん}に於^おける會^{くわい}員^{いん}讀^{どく}者^{しゃ}諸^{しよ}君^{くん}の感^{かん}想^{さう}、果^{はた}して如何^{いかん}。若^もし、夫^それ、吾^わ人^{にん}と悔^{くわい}を同^{おな}じせらるゝなくんば幸^{さい}也^{ひななり}。過^すぎたるは詮^{せん}なし。いでや、滿^{まん}身^{しん}の勇^{ゆう}氣^きを振^{ふる}ひ起^たちして迎^{むか}へ年の用^{もち}意^いせん哉^{かな}。